

# 産業日本語「特許ライティングマニュアル」を改訂します！

産業・技術情報を人に理解しやすく、かつ、機械にも処理しやすいものとする「産業日本語」を実現するための「特許ライティングマニュアル」の見直しを行い、以下7つのテーマにまとめました。

テーマの再構成と、例文の追加・修正を行いました。

テーマ名及びその説明文から、概要を理解できるようにしました。

## 【初版目次】

- A** 長文「分かりにくい」を避ける。  
(ルール 第A条の1～4)
- B** 不整列「雑然とした並び」を避ける。  
(ルール 第B条の1～4)
- C** 省略「落とし穴」を避ける。  
(ルール 第C条の1～5)
- D** 多義「どの意味なの？」を避ける。  
(ルール 第D条の1～3)
- E** 非論理的「信号がない」を避ける。  
(ルール 第E条の1～7)
- F** 非均質並立表現「ばらつき」を避ける。  
(ルール 第F条の1～2)
- G** 冗長「蛇行しすぎ」を避ける。  
(ルール 第G条の1～4)
- H** 難解「??」を避ける。  
(ルール 第H条の1～2)



## 【改訂版目次】

文 レ ベ ル	1. 短文にする	• 一文を短くして複雑な係り受けをなくすことで、人間の理解が容易になり、機械翻訳時の誤訳を減少できる。ただし、短文化する際には、意図しない内容とならないように注意する。
節・句 レ ベ ル	2. 省略しない	• 主語や目的語等がないと文の内容が不明瞭になり、誤訳されたり、外国語に訳しにくくなる。必要に応じて、主語や目的語を明示して、文意を明確にする。
	3. 多義を避ける	• 多義的な表現やあいまいな表現は、明確・具体的な表現に改める。また、日本語独特の表現は、訳しやすい表現に改める。
	4. 簡潔にする	• 冗長な表現や蛇行しすぎを避け、必要な情報だけを簡潔に伝える。また、非均質並立表現を避け、均質な表現を用いる。
	5. 難解を避ける	• 難解な表現や「??」を避け、平易な表現を用いる。また、機械にも処理しやすい表現を用いる。
語 レ ベ ル	6. 言い換える	• 多義的な表現やあいまいな表現は、明確・具体的な表現に改める。また、日本語独特の表現は、訳しやすい表現に改める。

ポスターにて  
紹介します！

※上記の内容は今後変更される可能性があります。

今春発行予定

